会 議 記 録			
会 議 の 名 称	環境厚生常任委員会		会議場所 第1委員会室 担当職員 坂田
日 時	平成27年3月13日(金曜日)	開 議	午後 1 時 0 0 分
		閉 議	午後 3 時 2 7 分
出席委員	明田 馬場 酒井 奥村 富谷 平本 小松 <西口議長>		
理事者出席者	中川環境市民部長 西田環境市民部市民生活・保険医療担当部長 吉村環境政策課長 塩尻環境政策課担当課長 西田環境政策課副課長 辻村環境クリーン推進課長 浦保険医療課長 小川健康福祉部長 玉記健康福祉部保健・長寿担当部長 俣野地域福祉課長 猪上地域福祉課担当課長 広瀬子育て支援課長 中村障害福祉課長 松村障害福祉課副課長 小栗高齢福祉課長 大矢健康増進課長		
事務局	阿久根副課長 坂田		
傍聴者	市民 - 名	報道関係者 - 名	議員1名(竹田)

会 議 の 概 要

1 開議

2 事務局日程説明

3 議案審査

[理事者入室] 環境市民部

< 環境市民部長 >

あいさつ・概要説明

(1) 第 6 1 号議案 平成 2 6 年度亀岡市一般会計補正予算 (第 5 号)

< 担当課長 >

資料に基づき順次説明

~ 1 3 : 2 0

[質疑]

< 馬場副委員長 >

P 3 3、国民健康保険事業特別会計繰出金の出産一時金について、当初見込み件数と実績件数は。 P 7、一般家庭ごみ処理手数料について、分別収集が進みごみ袋の販売が減少したが、収入増対策の検討は。また、市役所内で、ごみ分別をしていない理由は。

< 保険医療課長 >

当初予算見込み 1 2 0 件、決算見込み 8 9 件。

< 環境クリーン推進課長 >

分別拡大により、収入は減少したが経費節減につながっており、現在のところ収入増対策の検討はしていない。市役所内のごみは産業廃棄物であり、一般家庭ごみ分別とは取扱いが異なる。

< 奥村委員 >

P 4 3、塵芥収集運搬経費について、予定していた計画が変更になったため、収集車両を購入しなかったのか。また、平成 2 7 年度に購入予定なのか。分別収集をしていない地域はあるのか。

< 環境クリーン推進課長 >

分別拡大による車両購入を計画していたが、環境事業公社と協議するなか既存車両で対応をしている。分別拡大を昨年 1 0 月 1 日から全市的に実施しているが、一部ご理解いただけない地域があり、引き続きご理解いただけるように取り組む。

< 奥村委員 >

地域は。

< 環境クリーン推進課長 >

東別院町。

< 環境市民部長 >

車両について、当初は新たな事業のため増車を前提に計画したが、環境事業公社と増車・増員せずにできないか協議するなかで、増車・増員なしで実施することができた。平成 2 7 年度も分別拡大による増車はないが、ビン収集コンテナが経年劣化しており、購入によりコンテナの大きさが変わるため、平成 2 7 年度末に増車し、平成 2 8 年度から運行予定である。

< 奥村委員 >

東別院町以外に分別収集をしていない地域はあるか。

< 環境クリーン推進課長 >

ない。

< 奥村委員 >

町全体が反対しているのか。

< 環境クリーン推進課長 >

現時点で自治会の協力を得られない状況であるが、町全体ではなく協力をいただいている方もいる。

< 明田委員長 >

いつ頃を目途に解決するのか。

< 環境市民部長 >

自治会の意向を十分に調整できていない部分がある。引き続き協力いただけるよう取り組んでいく。

< 馬場副委員長 >

分別をしていきたいという地域町民の声がある。

< 環境市民部長 >

分別していただければ収集しており、まったくしていない訳でない。

< 奥村委員 >

他の地域でも分別されていない方はいる。東別院町でも分別されている方がいるのであれば、分別されているとの答弁でいい。

~ 1 3 : 3 3

(2) 第 6 2 号議案 平成 2 5 年度亀岡市国民健康保険特別会計補正予算 (第 2 号)

< 保険医療課長 >

資料に基づき説明

～ 13 : 43

[質疑]

< 奥村委員 >

P 4、特別調整交付金減額の理由は。

< 保険医療課長 >

府特別調整交付金 3 % は、市の特別な事情を勘案して交付されるものであり、過大に積算していたため減額するものである。

< 奥村委員 >

過大積算の詳細は。

< 保険医療課長 >

定率国庫負担引下げ分は、70歳から74歳までの医療費が法律上1割だが、国の予算措置で2割にしている。この1割の差額分について過大積算していた。

< 馬場副委員長 >

府が交付を止めたのか。

< 保険医療課長 >

市が多く見積もっていたためである。

～ 13 : 47

(3) 第 5 2 号議案 亀岡市老人医療費支給条例の一部を改正する条例の制定について

< 保険医療課長 >

資料に基づき説明

～ 13 : 50

[質疑]

< 馬場副委員長 >

財政上の問題で、改正がされるのか。 16日に議決を求める理由は。

< 保険医療課長 >

老人医療制度創設は昭和45年であり、当時は高額療養費の制度もなかったが、高齢化の急激な進行など、現在とは高齢者を巡る状況は大きく変化している。社会情勢の変化に対応し、持続可能で安定的な制度として維持していく観点や、他府県と比べて京都府は制度が充実していること、府内市町村の財政状況が厳しいことなどにより見直しが行われた。4月1日から自己負担が2割になる。現在の受給者証有効期限が3月31日のため、新しい受給者証を3月中に送付する必要があり、システム改修、印刷、郵送事務を行うため16日に議決を求めている。

[理事者退室]

～ 13 : 55

[理事者入室] 健康福祉部

< 健康福祉部長 >

あいさつ・概要説明

(4) 第 6 1 号議案 平成26年度亀岡市一般会計補正予算(第5号)

< 担当課長 >

資料に基づき順次説明

～ 14 : 35

[質疑]

< 馬場副委員長 >

P 3 3、災害時要配慮者支援経費について、1,665人の名簿掲載者の支援対策は。P 6、繰越明許費について、亀岡病院建設工事を延長した具体的な理由は。

< 地域福祉課長 >

名簿掲載者の本人同意が必要なため、現在、同意を求めている状況。今後、災害対策本部等と連携し協議を進める。

< 馬場副委員長 >

今後は民生委員・児童委員、ホームヘルパー等の介護支援者が対応するのか。

< 地域福祉課長 >

災害関係者として、自治会、警察、消防、民生委員・児童委員、社会福祉協議会等と協議しながら進める。

< 高齢福祉課長 >

小規模多機能型居宅介護について、亀岡病院が新町に建設しており、地元住民説明会で、騒音振動等に十分注意して欲しいと要望があった。また、認知症対応型共同生活介護けやきについて、4階建て施設の2階部分を改修するため、利用者の迷惑にならないように工事を進めている。

~ 14 : 40

(5) 第 6 5 号議案 平成 2 6 年度亀岡市介護保険事業特別会計補正予算 (第 2 号)

< 高齢福祉課長 >

資料に基づき説明

~ 14 : 47

[質疑]

< 馬場副委員長 >

P 1 2、居宅介護サービス給付経費と施設介護サービス給付経費の詳細は。

< 高齢福祉課長 >

居宅介護サービスは、通所リハビリや通所介護・訪問介護等が減少しているためであり、施設介護サービスは、亀岡病院が介護保険施設90床を平成26年4月から運用したため増加している。

< 馬場副委員長 >

施設介護が増加すると介護保険料が上昇するのか。

< 高齢福祉課長 >

年間費用が居宅介護サービス約100万円、地域密着型介護サービス約200万円、施設介護サービス約300万円である。

[理事者退室]

~ 14 : 50

[自由討議] なし

< 休憩 14 : 50 ~ 15 : 00 >

4 陳情について

○④老人医療費助成制度老の維持、拡充に関する陳情書

< 事務局 >

陳情書朗読

< 明田委員長 >

本委員会としては聞き置く程度する。

< 全員了 >

~ 15 : 05

5 討論 ~ 採決

[討論]

< 馬場副委員長 >

第52号議案について、京都府の老人医療費助成制度は、国の医療制度改正により、70歳から74歳までの窓口負担を1割から2割に引き上げることに連動し制度を縮小するものである。今回の改正が実施されれば、現行対象者約6万人が5年後には43%減少し、本市では約975人減少する。これは年金引下げや消費税増税で、高齢者が本当に暮らしにくいなか、追い打ちをかける福祉制度の後退である。府民が作り上げてきた制度を、財政問題を理由に改正するのはおかしい。他の事業では予算を使い、福祉の予算を削るのはいかがなものかという点で反対。

< 酒井委員 >

第52号議案について、大変意義のある制度であったが、国の制度に上乘せして地方自治体が負担することについては、他の制度が充実されていることを考えれば、このまま続けられればいいということにはならないので賛成。

[採決]

第52号議案 挙手 多数 可決 (反対 : 馬場副委員長)

第61号議案 挙手 全員 可決

第62号議案 挙手 全員 可決

第65号議案 挙手 全員 可決

[指摘要望事項] なし

< 明田委員長 >

委員長報告は、次の委員会で報告することとし、字句等の整理は正副委員長に一任願う。

< 全員了 >

~ 15 : 12

6 その他

閉会中の継続審査申出について

< 明田委員長 >

案のとおりとする。

< 全員了 >

常任委員会行政視察について

< 明田委員長 >

委員会視察について意見を確認する。

< 酒井委員 >

調査事項がでた時点で、行き先や日程を決めればいい。

< 馬場副委員長 >

子育て支援策について、長野県や関東周辺に先進地があり、次回の委員会で提案する。

< 酒井委員 >

まずは本市の子育て支援の状況を調査した上で、何が課題なのかを踏まえて視察できればと考える。

< 小松委員 >

視察の実施を希望する。

< 富谷委員 >

目的があれば視察は必要である。

< 平本委員 >

目的があれば視察は必要であるが、必要がなければ行かなくていい。

< 酒井委員 >

例年であれば5月に2泊で視察を実施しているが、目的に合わせ柔軟に視察を実施すればいい。

< 平本委員 >

時期は5月に決まっているのか。

< 明田委員長 >

決まっていない。

< 馬場副委員長 >

5月に実施するのは、年度の早い時期に視察を行い、その年度に生かすためである。子育て支援について月例で勉強した上で、視察を実施すればどうか。

< 奥村委員 >

委員長案の提案を願う。

< 明田委員長 >

16日に視察項目を含めて、視察を実施するかを決定する。また、今後の月例会内容についても検討を行う。

散会 ~ 15 : 27